

飛び入学に関する
自己点検・評価報告書

令和8年6月

日本体育大学 体育学部

飛び入学に関する自己点検・評価報告書

自己点検・評価の状況について

飛び入学に関する自己点検・評価の実施状況（実施時期、実施体制、評価結果の概要、評価結果の公表方法等）について

実施時期：令和8年6月

実施体制：アドミッションセンター運営委員会

評価結果の概要：飛び入学制度は平成24年度の導入以降2名が入学しているが、平成30年度以降、志願者がいない状況が続いている。飛び入学の対象となる受験生が少ないこともその要因であるが、オープンキャンパスや高等学校教員向けの進学説明会などで引き続き飛び入学制度を周知し、志願に繋げる努力が必要である。

評価結果の公表方法：大学ホームページにて公開する。

1 飛び入学の導入経緯及び趣旨等について

1-1 飛び入学を導入した経緯

日本体育大学は、建学の精神に基づき社会的使命・目標を実現するべく掲げた「大学改革構想」の柱の一つとして、平成24年度入試以降、入試制度改革に取り組み、様々な基準の入試制度を導入することで優秀で多様な学生を獲得し、社会に貢献できる人材養成の拡充を目指してきた。

体育学部では、一般入試のほか、競技力の高いアスリートを誘うスポーツ推薦、地方スポーツ振興の担い手を養成するための地域ブロックA0入試（平成30年廃止）、社会人アスリートのセカンドキャリアを支援するためのリカレント入試など多様な選抜区分を導入するなかで、平成26年度入試から優れた資質を有するアスリートを早期に受け入れ、更にその能力を伸長させるための飛び入学選抜を導入した。

1-2 飛び入学を実施する趣旨

日本体育大学は、本学が展開する体育及びスポーツ科学に関する分野において、学術と実務を教授研究し、国際的視野をもった教養高い人間を育成するとともに、広く人類の健康の増進及び福祉の充実と、スポーツ文化の向上及び体育の発展に貢献してきた。更に本学が社会的貢献を図るために、既に高度なスポーツ技術（技能）を有し、多くの国際大会（オリンピック、世界選手権等）において顕著な成績を収めているアスリート（ユースエリート等）に対して、早期よりスポーツの実践的学修の機会を与え、さらにその才能の一層の伸張（競技力の向上）を図るため、飛び入学を実施する。

1-3 飛び入学をする学生に求める資質

体育及びスポーツ科学の分野の世界的な競技大会（オリンピック及びこれに準ずる国際大会）において上位入賞の経験等を有する者で、その競技力の更なる向上を本学において目指す者。

2 飛び入学選抜の実施状況について

2-1 飛び入学選抜による受入状況

令和7(2025)年度実績

募集分野(学部・学科)	募集人員	志願者数	入学者数
体育及びスポーツ科学(体育学部・体育学科)	若干名	0人	0人
体育及びスポーツ科学(体育学部・健康学科)		0人	0人

2-2 出願に際して工夫したこと

出願を希望する受験生と保護者及び在籍校進路指導部等関係者に対し、飛び入学に対する不安を取り除くとともに、入学後のミスマッチを防ぐため、入学試験の内容及び入学後の教育・指導体制について過年度実績の状況を交えた詳細な説明を行う体制を整えている。

2-3 選考方法について

小論文試験(60分)、プレゼンテーション(15分)

2-4 選考に際して工夫したこと(出題内容・出題意図等)

小論文試験において、体育・スポーツ科学の分野における社会との関わり等をテーマとして出題し、課題発見力、理解力、文章構成・表現力等を評価するとともに、プレゼンテーション(これまでの経歴や入学後の学修目標、卒業後の進路等)において、質疑応答の際には調査書や志望理由書を参考資料として活用し、適性や意欲、熱意等を総合的に評価している。

3 入学後の教育内容、指導・サポート体制について

3-1 教育内容の特色について

本学体育学部は、人々の健康の増進と福祉の充実、さらにはスポーツ文化の向上と体育の発展に貢献する人材の養成を目的として設置された学部であり、理論を含めた総合的な学びを通して、体育スポーツを専門的・科学的にとらえる思考力を養うことが重要だと考える。獲得した知識は、必要な時に実践できてこそ価値があり、スポーツに関わるさまざまな活躍フィールドにおいて、優れた実践力と応用力を発揮できるようにするために、講義で身につけた理論を実践する場として、多様な実技、演習を用意している。

3-2 指導・サポート体制の特色について

学生一人ひとりに、「学生担当教員(アカデミックアドバイザー)」を配し、学生生活における相談・助言を行う体制をとっているほか、飛び入学入学者を対象に教学センター事務室及び学生センター事務室の担当職員を割当て、各種の相談・助言を行う体制を整備している。

学修環境については、国際的に優れた競技スポーツ実績を有する学生が多数在籍する本学では、日本代表選手として中央競技団体からオリンピック・パラリンピック及び世界選手権大会等へ長期に亘り海外派遣されることが多々あるため、派遣期間中はメディア(学内の教育支援システム(n-pass))を高度に利用し教室等以外の場所で受講・学修・単位修得が可能な環境を整備しており、他のトップアスリート学生同様に授業担当教員との事前打ち合わせにより適切な授業展開を行うこととしている。

また、本学の学生会運動部に所属する場合には、本学教職員の当該運動部長及びコーチが競技力向上の指導の他に就学上の相談・助言を担っていく。更には2つのキャンパスで必要に応じてカウンセラーによる相談対応を行う体制も整備している。

3-3 学生の在学状況について

入学年度	入学者数	在学学生数	転学者等
令和8年度	0人	0人	0人
令和7年度	0人	0人	0人
令和6年度	0人	0人	0人
令和5年度	0人	0人	0人
令和4年度	0人	0人	0人
合計	0人	0人	0人

平成26年度入学者：1名（平成30年3月卒業）
平成29年度入学者：1名（令和4年3月卒業）

4 自己点検・評価の総括及び今後の取組みについて

4-1 飛び入学に関する自己点検・評価を総括するにあたり、制度導入から指導受け入れ体制の状況について評価した結果について

飛び入学選抜制度の導入は、大学改革の柱の一つとして平成24年度入試から入試制度改革を進める中で平成26年度入試から導入された。この入試制度の趣旨は、本学の建学の精神及び社会的使命・目標を実現するために重要なものであり、平成30年度以降、志願者がいない状況は続いているが、過去に入学した2名については、在籍中の就学状況は良好であり、在籍中から卒業後に亘って優秀な競技成績を収めていることから、就学面及び競技面の指導体制は円滑に行われていたと評価できる。

これは、導入初年度から実施している入学者の受入体制として、学生の不安を解消し、充実した就学環境で学生生活をおくれるよう、学生担当教員及び学生支援センターを中心に競技指導の関係者との密な連携を取り、学生とコミュニケーションをとるよう務めている成果であると言える。

4-2 今後の取組みについて

次年度の実施に向けての取組み

現時点においては、順調に修学及び卒業できる事例があるものの、平成30年度以降、志願者がいない状況は、高校生としては同級生より1年早く高等学校を離れて、大学へ入学する事が現実的なものとして受入れづらく感じていることが、当制度への志願へ結びつかない大きな要因となっていると思われる。

基本的な受入体制は現状を継承していき、広報活動においてこれまでの受入実績を詳細に説明するとともに、国の制度として「飛び入学者に対する高等学校の卒業程度認定制度」が創設されたことを併せて紹介することで、飛び入学を視野に入れた進学を検討してもらえるよう継続的な志願者確保及び入学者の獲得へ繋がられるよう工夫していく。

以上